

ワイルドの芸術過剰防衛

—『虚言の衰退』における自然と芸術—

岩 永 弘 人

(東京農業大学助教授)

『虚言の衰退』において、ヴィヴィアンは自然に対して2つの見方を提示する。それは「自意識的な教養に対立する自然のままの単純な本能 (simple instinct)」と見る見方と「人間の外にある諸現象の集合」というものである。

1つ目の定義を例証するのに、ワイルドがもっている『トロイラスとクレシダ』の“*One touch of Nature will make the whole world kin*” という台詞は「新奇さを好むという点で、世間は一致している」という意味である。しかしここでワイルドはその意味を少し変えて「自然(の女神)がちゅっと触れれば、それは世界を1つにする、2度(それ以上)触れると芸術を破壊してしまう」という意味で使っている。言い換えるとこれは、芸術作品を作る際に、自然の力を少し(on touch)だけ借りる事は、その作品を均質なものにするのには役立つかもしれないが、それにばかり頼ると芸術作品は破滅してしまう、という意味だろう。(『虚言の衰退』の冒頭でも自然が不完全であるという事が述べられている事が想起される。)ヴィヴィアンはこれを敷衍して次のようにも言う。「自然は独力で暗示を与える力はない。ワーズワースは湖畔地方へ出かけたが、彼はけっして湖畔詩人ではなかった。彼は自分がすでにそこに隠しておいた説教を石の中に発見したにすぎない。」言い方を変えれば自然は、芸術という形式にあてはめられる教材と考えられているようだ。

2つ目の自然——すなわち「花鳥風月」的なもの——についての議論で一番面白いのは、ハムレットの、演劇は「自然に掲げられた鏡」という言い方を、シェイクスピアの演劇観を示すものではないとしている箇所であろう。そして芸術は、「鏡というよりはヴェールだ」という。つまり、このヴェール(すなわち芸術)が「芸術の目から見ると何の統一性ももっていない」自然というものを覆い隠し、それを演出するものということである。こういうコンテクストでワイルドはゲーテの言葉を引用する。「巨匠がおのれを表わすのは制限の中に働くときである。」と。

「自然が芸術を模倣する」と言った時のワイルドの頭にあったのは、こういう「自然」であった。この言葉を再考する手がかりとして、彼がこうした自然に対して異常にサディスティックな——過剰防衛ともいえる——態度をとっているという事実がある。当時の自

然に対する過度な崇拜に反発するためにそうなった、という議論は可能であるが、それを十分考慮してもまだワイルドの自然の扱い方は少しきつすぎるように思われる。彼は——自然に対して多少無知だったかもしれないが——決して自然嫌いではなかった。彼は自然そのものを否定しているわけではなく、その美を過度にそして盲目的に、強調するのを嫌っただけではなかったか。彼の『獄中記』の次の言葉は示唆的である。「私には、ギリシア人の態度がひどく健康的に思える。彼らは、日没について語りあう事はなかったし、事に落ちる影が本当に藤色であるかどうかなどと議論することもなかった。」

これを頭において「自然が芸術を模倣する」という言葉を考えて、一方にはロンドンの霧の喩えを使って説明される、いわば「はじめに言葉ありき」的な解釈がある。しかし、そこにもう少し不可知論的な、神秘主義的なものを見る事はできないだろうか。つまり、自然自体がある意志を持ち、芸術を主体的にまねるという発想である。先ほどの定義で言うところには、最初の、本能としての自然という事になる。芸術よりも低次ではあるにせよ、ワイルドは自然の中に何らかの意志を認めていたのではないか。そして、それに相反する芸術至上主義を弁護するために、この『虚言の衰退』に見られるような芸術の過剰防衛が出てきたのではないか。

このように見えてきて気になるのは〈言葉〉の問題である。たとえば、『芸術家としての批評家』、『ドリアン・グレイ』において彼は、言葉を芸術の最高の形式として崇めている。また、ホイッスラーが芸術における絵画の優越性を主張したとき、ワイルドはそれを否定し、詩人を最高の芸術家としたという。その理由は詩は全ての経験を包含できるからというものであった。ここでワイルドは完全に、芸術における言葉の優越性を宣言していると言えるだろう。しかし、言葉は自然なのか芸術なのか。彼の議論の流れに従って考えると、生のままの言葉は、自然であり、それを意図的、自意識的にまとめたもの——広い意味の文学——は芸術であるという風に考えることができるだろう。ワイルドにとって言葉というものは素材であり、同時に原理でも有り得るような存在だったのである。そして、彼の言葉へのこだわりは、とりもなおさず彼の芸術へのこだわりであったと思われる。